

ニュー波平ジェネレーション

国立国際医療研究センター病院皮膚科

玉木 毅

日本老年学会と日本老年医学会が、高齢者の定義を従来の65歳以上から75歳以上とする提言を行ったそうである。脳卒中などで治療を受ける割合が以前より低下する一方、身体能力や知的機能は向上しており、生物学的な年齢が10～20年前に比べて5～10歳ほど若返っているという調査結果が根拠とのことである。65～74歳は「准高齢者」と呼ばれるようになるそうである。

ところで日本人なら誰でも知っている漫画「サザエさん」で、磯野家の家長である磯野波平の年齢を御存知だろうか。私は60代前半くらいという認識だったが、何と波平は54歳という設定なのだそうだ。家長としてフネに傳かれ、カツオに「バカモン」と雷を落とす威厳を保ち、囲碁・盆栽・書画・骨董・俳句をたしなみ、タラちゃんという孫がいて、電車やバスで席を譲られ（そして「年寄り扱いしおって」と憤る）、1本だけ残る毛に丁寧にドライヤーをかける波平が54歳とは。

医療水準が低く55歳で定年だった、サザエさん連載開始の1951年に、54歳の男を取り巻く環境はそんなものだったのかもしれない。そう考えると両学会の提言は結構説得力があるように感じられる。

実は私も昨年ちょうど54歳になったところで、波平と同じ年と知って愕然としたところである。幸い波平よりはだいぶ頭髪が残っており、外見的・体力的にはマスオとまでいかないまでも、カツオの担任くらいには踏みとどまっているのではないかと思う。反面、波平ほどの威厳は未だ持ち合わせず、高尚なたしなみもなく、もちろんあのような立派な住処などとても所有出来ない（桜新町の磯野家の資産価値は2億ちょっとだそうである）。

少子高齢化により、丁度我々の世代である昭和36年生まれから年金支給開始が65歳となり、60歳定年の人は60～65歳の間「無収入」となる。少子化の今

と違って受験競争は苛烈を極め、住宅はバブルの熱が冷めやらぬ頃に高値掴み、高い住宅ローン金利に苦しみ、子供を持ったのも親世代より遅く、「ゆとり教育」という大失政で塾などの教育費は上昇の一途、年少扶養控除は廃止され（自民党の復活の公約も反故に）、我々の世代では結構多い専業主婦への控除も廃止予定と、まさに「踏んだり蹴ったり」の世代である。とても波平のように55歳で楽隠居とはいかない。

少子高齢化は若年労働人口の減少ももたらす。この労働力不足を補うため65～70歳を「新生産年齢人口」と呼ぶ有識者会議の提言もあるらしい。これと両学会の提言を合わせると、何やらうまいことを言っている我々の世代を死ぬまでこき使おうという政治的意図があるのではと勘繰ってしまう。「1億総活躍社会」とはつまるところ「1億死ぬまで働け社会」といったところか。政治家達ももっと早くから少子化対策に真摯に取り組んでいれば、無駄な道路やハコモノなどの公共事業へ浪費の限りを尽くさなければ、グリーンピアの失敗や年金住宅融資のコゲつき、消えた年金記録問題、最近でもGPIFの10兆円超運用損なんていうのもあったが、結局誰も失政の責任を取っていない。こんな失態がなければ年金制度は今もって安泰で、我々の世代は波平の時代よりさらに健康で充実した、大橋巨泉さんのような楽隠居生活を送れたのではないかと思うとくやしい気もする。

ただ時すでに遅し。その程度の政治家達を漫然と選んできた我々にも責任が無いとは言えない。楽隠居も人によっては半年くらいで飽きてしまうようで、その後の「退屈地獄」からギャンブルやアルコール依存症に陥る人もいると聞く。我々「ニュー波平ジェネレーション」が救世主として、この停滞し鬱屈した日本を元気にするのだとポジティブに考えるしかないか。